

MOTケーススタディ実証研修 概要報告

日時：平成23年1月14日（金）9：00～13：00

場所： 中小企業整備基盤機構九州支部（福岡市博多区）

講師：

群馬大学 伊藤 正実 教授

新潟大学 川崎 一正 准教授

岡山大学 藤原 貴典 准教授

島根大学産学連携センター 北村 寿宏 教授

島根大学産学連携センター 丹生 晃隆 講師

受講生：

九州 BIP のメンバー 18名

内容：

プログラム

- 9:00～ 9:20 全体説明
- 9:20～ 9:40 自己紹介（受講生）、グループ分け
- 9:40～ 9:50 休憩（グループ討議準備）
- 9:50～ 11:30 ケーススタディ 1 （新事業創出での産学連携の特徴とその効果）
- 11:30～ 11:40 休憩
- 11:40～ 12:45 ケーススタディ 2 （中小企業の新規事業立ち上げにおける MOT）
- 12:45～ 13:00 アンケート回答

ケーススタディ 1：「新規事業展開における産学連携の特徴や効果を理解する」

4事例の概要を例示し、産学連携による事業化の進め方を比較検討することで、産学連携の特徴、パターン、活用の仕方などを比較検討し、産学連携の特徴とその効果について理解を深めることを目的とするケーススタディ。

各事例の簡単な説明 3分程度×4 合計20分まで（max）

グループ討議 40分

発表 2～3グループ 計10分

解説 30分

ケーススタディ 2：「産学連携の使い方や MOT の理解を深める」

調査事例をもとに、「研究開発が終わり、製品ができたが、思うように売れない。今後、どのように支援していくか？」と言うどこかにボトルネックがある状況を設定し、その後の展開についてグループで議論し、解決に向けての方針や実行項目、計画を検討し提案してもらう。産学連携の使い方や MOT の理解を深めることを目的とするケーススタディ。

事例と状況説明 10分

グループ討議 30分

発表 2～3グループ 計10分

解説 15分

ケーススタディの実施方法について

1) 概略

ケーススタディでは、4～6人程度のグループを構成し、事例をもとにその課題について議論し、グループとしてのまとめを行う。また、グループのまとめの発表を行い、グループ毎の違いや新しい気づきにつなげる。

さらに、グループの発表後に解説を行い、理解を深める。

2) グループ内での役割

まず、各グループ内で、リーダー、書記、発表者をそれぞれ決める。それぞれの主な役割は、下記の通りである。

リーダーは、グループ討議を効果的に行えるように司会、進行する。

書記は、グループ討議で出てきた意見や課題などを書きとめ、整理する。

発表者は、グループの討議の内容をまとめ、発表する。

当日の様子

熱心に議論が行われ、また、グループ討議後の講師の説明にも多数の質問が寄せられた。

アンケートの回答を見ると、証研修のアンケートの結果、これまで作成を進めてきたMOTのケーススタディ教材やそれを用いた研修が概ね好評で産学連携などを理解する上で有効だったと確認された。

